

ルカの福音書 第2章 8節

「この土地に、羊飼いたちが、野宿で夜番をしながら羊の群れを見守っていた。」

野原で寝泊まりしながら働く者たちのところに訪れたイエス誕生の知らせである。彼らの仕事では、決められた時に、エルサレム神殿へと向かうことはかなわなかった。神殿恒例の行事や礼拝儀式には参加出来る者たちではなかった。エルサレム神殿に集まる人々からは切り離され、忘れられているような者たちであった。しかし、彼らに、世界で最初に、イエス誕生の知らせが飛び込んできた。クリスマスの奇跡である。何も無い、何も出来ない夜通し働く者たちのところにクリスマスは来た。

神の贈り物は、野に山に、そして街に愛の風となって吹いている。この風が必要なところに吹く。そして、特にこの風を必要とする飢え渴く者の魂に吹き込む。恐れなくてもよい、とのことばが野原に立つ者たちに吹き込む。そして風を受けた者たちは、集うべきところへとひたすら急ぐ。誕生した御子イエスを礼拝する。野から礼拝へと移された羊飼いたちである。

その日暮らしに翻弄され、野に立つときは多くある。何も無く、孤立するときはある。その都度クリスマスの奇跡が輝く。どこでも吹き込む愛の風がある。野原でも。